令和８年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　【松江市立 宍道中学校 】

(1)学力調査結果から見られた傾向

| 教科 | | 分析(成果○，課題●) | 改善策(・) |
|---|---|---|---|
| 国語 | 成果 | ○文章全体を把握し、まとまりを区分けすることができる。<br>○文章の特徴をつかみ、短くまとめることができる生徒が多い。 | ・文章の内容をつかみ、自分の言葉で伝える活動を継続する。<br>・語句調べ、ワーク、プリントについて、実際に辞書を使い自分で調べることを推進する。<br>・漢字、文法は、小テストの実施と振り返りの強化。文法については、復習を実施し、知識の定着を図る。 |
| | 課題 | ●文章全体をつかむことはできるが、細やかな展開や内容、意図を読み取ることが苦手な傾向である。<br>●漢字、文法の知識が定着していない。 | |
| 数学 | 成果 | ○正答率は全国平均値を上回っており、基本的な力は定着している。 | ・日頃の授業の中で、問題解決までの見通しをたて、他者に説明する活動を行う。<br>・関数領域の基礎知識を身に付けたために、週末課題等で力を育む。 |
| | 課題 | ●事柄が成り立つ理由を説明するための方針を立てることや、問題解決の方法を数学的に説明することに苦手な傾向がある。<br>●関数領域の知識・技能が定着していない。 | |
| 英語(成果または課題で話すことについて触れること) | 成果 | ○日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる生徒、日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができる生徒が多い | ・帯活動でスモールトークを取り入れ、英語を聞いて活用する機会を増やす。<br>・集団の中でそれぞれのタブレット端末に英語を話す機会を増やす。 |
| | 課題 | ●音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる生徒が少ない。<br>●集団の中でそれぞれのタブレット端末に向かって英語を話すことに抵抗をもつ生徒が多い。 | |

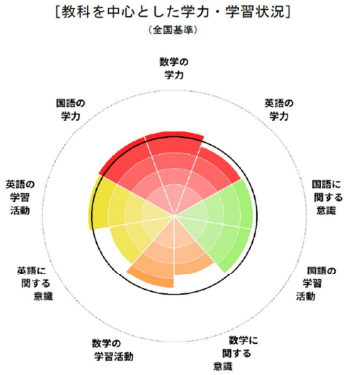
(2)質問紙調査から見られた傾向

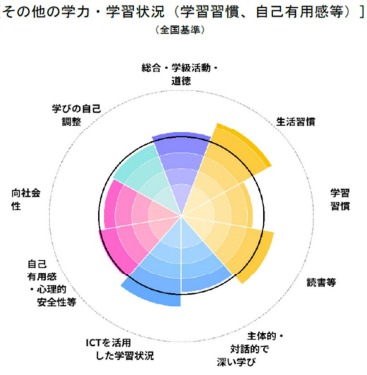
| | | 分析(成果○:強み/伸ばしたい点，課題●:弱み) | 改善策(・) |
|---|---|---|---|
| 質問紙 | 成果 | ○タブレットを使用した授業が定着し、タブレットを活用して自分の意見をまとめることができる生徒が多い。<br>○学校生活の中で、教師や友達に自分の良さを認められていると感じている生徒が多く、幸福感も高い。 | ・生徒一人ひとりが学習の意義を感じられるよう、将来への夢や将来への明るい展望がもてるような指導を教科を問わず継続して行う。<br>・教科を問わず、課題解決的な探求型の授業を意識して行うよう教職員で共通理解する。 |
| | 課題 | ●家庭での学習時間が、平日、休日ともに少なく、30分以下の生徒が一番多い。<br>●授業において課題解決的な学習を行ったという実感が薄い生徒が多い。 | |

(3)その他、今後校内研究等学校全体で特に力を入れて取り組むこと

| | |
|---|---|
| 学校全体 | ・自己有用感、自己肯定感をさらに高めることができるよう、教職員全体で明るい声掛けや生徒自身を認める声がけを意識して行う。<br>・タブレットを活用した授業が定着しつつあるので、タブレットを有効に活用した探求的な学びについて研修する。 |

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)




【受検者数】

49 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

